

# 苫小牧市教育委員会会議録

|         |   |
|---------|---|
| 会議区分    | 苫小牧市教育委員会 第 4 回 定例委員会   |
| 日時      | 平成26年4月25日<br>自 15時00分 至 15時53分   |
| 場所      | 苫小牧市役所本庁舎第2委員会室   |
| 出席委員    | 委員長 上原 毅<br>委員 佐藤 郁子<br>委員 佐藤 守<br>委員 植木 忠夫<br>委員 和野 幸夫   |
| 欠席委員    |   |
| 会議録署名委員 | 佐藤 郁子 委員  |
| 会議録作成職員 | 総務企画課総務係主任主事 小坂 喜子  |
| 事務局職員   | 教育部 長 澤 口 良 彦<br>教育部 次長 荒 物 屋 貢 一<br>学校教育課 長 木 村 賀 津 彦<br>指導室 長 中 川 恵 介<br>生涯学習課 長 瀬 能 仁<br>総務企画課 長 斉 藤 拓 也<br>学校教育課学務係 長 高 坂 博 幸<br>総務企画課総務係 長 下 濱 辰 哉<br>総務企画課総務係主任主事 小 坂 喜 子 |
| 会議案件    | 別紙のとおり  |
| 会議の経過概要 | 別紙のとおり  |

|   |  |
|---|--|
| 1 | 委員会開会の宣言（上原委員長） … 15時00分   |
|   |  |
|   |  |
| 2 | 会議録署名委員の指名（佐藤郁子委員）   |
|   |  |
|   |  |
| 3 | 会議録の承認   |
|   | （上原委員長） 第3回定例教育委員会（平成26年3月28日開催）の会議録について、何かご質疑がございますか。   |
|   |  |
|   | （一同「なし。」の声）  |
|   |  |
|   | －会議録どおり承認－   |
|   |  |
|   |  |
| 4 | 教育長の報告   |
|   | 前回3月28日の第3回定例教育委員会以降の行事などについて報告をさせていただきます。   |
|   | 始めに、3月28日、3月31日、4月1日、4月2日の4日間で平成26年の退職辞令、異動辞令、採用辞令など199件の交付を行いました。今年は組織機構改革に伴う職員異動の辞令もあり、大変交付が多かったところでございます。         |
|   | 4月7日から8日にかけて教育委員の皆様には各小学校への入学式にご参列をいただきました。ありがとうございました。  |
|   | 4月9日に胆振管内教育長会議が胆振振興局で開催され、篠原胆振教育局長より「管内教育推進の重点」が説明されております。項目としては社会に生きる実践的な力の育成として「授業力向上」、「望ましい生活習慣・学習習慣の確立」、豊かな心と健やか |

|   |
|---|
| <p>な体の育成として「いじめ問題への対応」、「体力の向上」、信頼される学校づくりの推進として「服務規律の徹底」、地域全体で子どもを守り育てる体制づくりの推進として「コミュニティースクール導入」、「読書活動の推進」を重点項目として今年度の事業を展開すると説明されております。</p>   |
| <p>4月11日の第1回校長会議では、委員長ほか各委員にご出席をいただき各校長に紹介をさせていただきました。ご出席ありがとうございます。また、市長の挨拶では、平成27年度・28年度から、教員パソコン配備について言及されましたことから、早急に具体的な準備が始まったところでございます。</p>   |
| <p>次に4月14日には生涯学習関連の事業であります「苫小牧市長生大学入学式及び始業式」が開催され70名の方に新たに入学を許可したところでございます。多くの皆さんが元気に学生生活を過ごしていただきたい、と祝辞を述べ、また、多くの在校生の皆さんも出席され満員の会場でありました。</p>  |
| <p>4月15日に転入校長先生、17日に転入教頭先生の研修会を開催しております。16日には第1回の教頭会議が開催され私から平成26年度苫小牧市教育行政執行方針の説明と個人情報の管理、交通事故についてお話をさせていただきました。</p>   |
| <p>4月16日に「平成26年度第40回苫小牧市教育研究会定期総会」が、錦岡小学校で開催されております。私から義務教育が果たすべき役割は、児童生徒一人ひとりの人間力を豊かに育てることであり、学校自体の教育に対する力量、すなわち「学校力」と「教師力」を強化することにある。また、教員の研修に対する意欲は、教師自身や子どもたち、保護者や地域からの信頼を得る原点であるとお話させていただきました。</p> |
| <p>4月22日に全国学力・学習状況調査が実施されております。校長会とも協議させていただき教育委員会議で決定されましたとおり本市の平均正答率と正答数を公表することとし、記者発表も行ったところでございます。11日午前には市長、副市長、正副議長、文教経済委員会正副委員長にも公表内容について連絡をしたところでございます。</p>                                      |
| <p>次に中学校の修学旅行が東京方面の開成中学校と勇払中学校を皮切りに4月23日から始まっております。最終は5月15日帰還の日程になっております。東京関東方面が</p>  |

|   |
|---|
| <p>10校、東北方面が4校、山なみ分校が道内方面で実施されます。是非有意義な旅行になってほしいと願っているところでございます。</p>  |
| <p>次に高校適正配置計画胆振東学区の会議が5月7日に本市で開かれます。北海道教育委員会は生徒数が減少していることから、例年この時期に3年後までの見通しをローリングして各団体に提案しております。平成26年度の入学選考が終わりましたので、今回のローリングは平成27年度から29年度となります。</p>   |
| <p>協議では毎回、町教委からは町の活性化から存続を求める意見が出され、職員団体からは学級定数を下げることで学校体制の存続を求められ、市内の私立高校からは苫小牧市内の公立高校の間口の削減、という意見が出されます。それぞれの立場での要求であり、結論として苫小牧市に矛先が向けられることとなります。一方で、市内の保護者からは、親の気持ちとしては学力レベルの高い高校は減らしてほしくないという意見がある反面、学級減の方が切磋琢磨できるので質が向上するといった見方をする方もおります。いろいろな意見や利害が絡み難しい課題であると感じているところでございます。</p> |
| <p>そろそろ東学区、西学区の設定自体も見直す時期にきているのではないかと思います。</p>  |
| <p>また、平成27年度の「国・道及び関係機関に対する重点要望事項」に、北海道に対して最重点要望事項として「道立特別支援学校の設置」が格上げされた取組になりましたのでお知らせいたします。詳細につきましては後日の会議でと考えております。また、5月になりましたら委員長にも北海道教育局に陳情にご同行いただく予定になっておりますので宜しくお願いいたします。</p>   |
| <p>以上、報告とさせていただきます。</p>   |
| <p>機構改革により新体制で教育部がスタートいたしました。国の教育改革も国会の場で論議をされ、来年度の施行を目指していると報道されておりますが、多くの教育的課題について、委員長を始め、各教育委員の皆様と「ほうれんそう」を柱に共通認識のもとに課題解決を図りたいと考えております。今後とも宜しくお願いいたします。</p>  |
| <p>(上原委員長) ありがとうございました。何かご質問等ございますか。</p>  |
|   |

(一同「なし。」の声)

5 議 案

第1号 苫小牧市立学校管理規則の一部改正について

(学校教育課長) — 「苫小牧市立学校管理規則の一部改正について」の説明 —

(上原委員長) 質疑に付します。何かございませんか。

(佐藤守委員) 教育上必要のある場合というのは、具体例としてはどのような場合を考えられ設定されているのでしょうか。

(学校教育課長) 今までの規定が「特に」というところを、今回は、改正によりまして、教育上必要のある時ということに改めて、条件的には緩和したと、そういうような改正でございます。

(上原委員長) よろしいですか。

(佐藤守委員) はい。

(上原委員長) 他にございますか。質疑がないようですので、原案どおり決定することよろしいでしょうか。

(一同「はい。」の声)

—原案どおり決定—

第2号 苫小牧市学力向上アクションプランについて

(指導室長) — 「苫小牧市立学力向上アクションプランについて」の説明 —

|  |
|--|
| (上原委員長) 質疑に付します。何かございますか。  |
| (佐藤守委員) L I Tの公募と言う事で、年齢的なものとか経験とかそのような先生方の募集の枠組みたいのが考えられているのかな、というのが1つで、区域割りされているということで、何校かあるとは思いますが、公募された先生方に負担はかからないのかなあ、と心配がある、この2点だけお聞きしたいです。   |
| (指導室長) L I Tの公募に関しましては、40代前後の先生を考えてございます。あらかじめ教育委員会指導室の方でも、リストアップいたしまして、もしも公募が足りないようであれば、一本釣りをかけたいなというふうに思っておりますけれども、いずれにしても、巡回指導教員4名、市に配置しておりますが、この先生方の年代が45歳前後ですので、それよりも年下のいわば学校の中で今後ミドルリーダーになって頂きたいような、そういった先生方をひとつターゲットにしながら公募をかけたいというふうに思います。それから、2つ目の公募と区域割りの関係ですが、区域割りはあくまで、学力向上エリア会議のいわゆる施策で、これとL I Tの関係は直接は結びつきませんので、ご理解いただきたいと思えます。          |
| (上原委員長) よろしいですか。   |
| (佐藤守委員) はい。  |
| (上原委員長) 他にございますか。  |
| (佐藤育子委員) 学校教育と家庭教育の連携協力の推進に関わってくると思うんですが、家庭教育も含めて児童とその保護者と一緒になって、お勉強するという事だと思っておりますが、その結果を保護者に返す、要するに報告するといえますか、そういうことは、どのような方法で伝えるといえますか、そういうことをお考えですか。学校の中でも、区割りもエリアもそうですし、希望者もいて勉強いたします、それには、家庭の協力も必要なので、一緒になってお勉強していくと思うんですが、その結果を保護者の方に結果報告をすると思うんですが、それはどのような形で、これからいろいろ研究会で審議されると思うんですが、保護者も一緒にこう、言葉が適切かどうかかわかりませんが、巻き込んで一緒にこう勉強していかないと、なかなか効果と |

というのは上がりにくいと思うんですが、そのためにも1つの目安として、どのような報告の仕方をしていくのかということをお教えいただければと思います。

(指導室長) まず、すでに4月22日に行われた全国学力テストの状況調査では、国語のA Bの問題の中に生活習慣にかかわる、児童生活質問紙、というような、例えば1日何時間お勉強しますかとか、家庭の状況ですとかそういった調査がございます。その出てきた傾向を、まずは、家庭教育情報誌「home & school」で年6回発行しますけれども、A3カラーの裏・表の大きさを考えております。これで掲載してまず各ご家庭にお届けしたいというふうに考えております。それから、今回市P連と連携することによって、そうした情報を市P連の方から単Pの方に伝えていただくような、こうした情報をPTAのレベルで各学校にお届けするというようなそういったルートも考えてございます。同時に情報は双方向のやりとりが必要だということも考えてございますので、各学校で行われた例えばPTA主体の家庭教育の研修会ですとか、そういったものの情報も、実績をあげてそこで出てきたいろんな課題も吸い上げて、それをまたいろんな形で回答という形になろうかと思っております。またあるいは改善策という形でお示しするかもしれませんが、そんな形で家庭教育情報誌に掲載して、また家庭にお届けしたいと、基本的にはそんな考えでおります。

(上原委員長) よろしいですか。

(佐藤郁子委員) はい。実態がわからなければ、これがどういう効果になっているのか安心もあまりなさらないし、危機感もなくなってくるのではないかと思いますので、相互に連絡をしまして情報を出し合えば良いのではないのかなかと思いたので伺いました。

(上原委員長) 他にございませんか。それでは質疑がないようですので、原案どおり決定することよろしいでしょうか。

(一同「はい。」の声)

－原案どおり決定－

6 協 議

なし。

7 そ の 他

(1) 苫小牧市図書館基本計画について (報告)

(生涯学習課長) －「苫小牧市図書館基本計画についての」説明－

(上原委員長) 何かご質問等ございませんか。

(佐藤郁子委員) 文言のことですので、これからパブリックコメントでたぶん色々なご意見が出てくるかもしれないんですが、3ページの「市民が利用しやすく、役立つ図書館」というところの⑤なんですが、「多文化サービスを充実します」という、その「多文化」の捉え方なんですが、多くの国の事ですか、大雑把にとらえていることがあると思うんですが、所管では、多文化をどのように位置づけているのかという事も必要になるのではないかなと思いますので、この多文化サービス具体的にどのような事なのか。外国人の方が苫小牧で住んでらっしゃる方に対してのことなのか。それとも日本語だけではなくて、他の言語を使った書物を含めているのかというところを教えてください。もう1つは、基本目標の2に入るのではないかと思います、利用する子供も含めて非常にいい状態で使っていくというその目標だと思うんですが、教育という例えば面から考えた場合に、図書館の蔵書の扱い方ですか、それから、小・中も含めて、幼稚園くらいから入るのかもしれませんが、雑誌含めて非常に雑に扱う利用者が多いというのが全国的に出てきているんですね。それは学校の図書館ではなくて、公共的な図書館の中でも、出てくるものですから、お互いに快適な環境で読書をしたり、図書館を利用する場合にひとつの姿勢としては、図書館をどう利用するか

ということの中に、図書が財産であるというそういう考えの中で、どこかで使い方を考えていくというようなところを入れていただければ、よりよく読書環境の整理が出来るのではないかと思いましたので、もしもお考えであれば、入れるスペースがあるかどうかと言う事と、パブリックコメントで出てきた時の、答えの中で使っていただければと思います。以上2点です。

(生涯学習課長) まず、パブリックサービスの件についてのお尋ねでございます。こちらの方につきましては、14ページに具体的な多文化サービスについて書いております。最初に書いてございますとおり、外国語版の利用案内等、これまず作成ということで考えております。今まで図書館としてはこういったものを作成しておりませんでした。苫小牧市内の留学生の方が、数百人いらっしゃるというふうにお聞きしてございますので、まず韓国語版、中国語版の利用案内を作成していきたいと考えております。また、洋書の資料関係、こういったものは図書館としては非常にまだ少ないと言う事でございます。今回、蔵書整備費が増えたという事がございますので、こちらの整備にかける部分も力を入れていきたいというふうに考えております。今後の話になるんですけども、まだ具体的に進んでいないのですが、市内にALTの方いらっしゃいますので、こういった方々との協力によって市民対象としてはこういった外国語講座といったものが開催できればというふうには考えてございますけれども、このへんについてはこれから、検討していきたいと思っています。雑誌、図書館の資料こういった貴重な財産は雑に扱う人が多いと言うご指摘ですけれども、確かに稀にはそう言った方ございます。図書館の対応としては、あまりにも他のお客様に貸す状態ではない場合につきましては、同じ本を弁償していただいています。基本的には弁償ということで、もし、同じ本がなければそれと同等の同じ分野の本、こういったものを弁償していただいています。そういった状況でございます。お客様によっては、こういった方々いらっしゃいますので、貴重な資料であるというところの部分も、どこかに付け加える部分があれば、基本計画に付け加えていきたいなというふうに考えてございますので、よろしく願いいたします。

(佐藤郁子委員) 副本がある部分是对应できるんですけど、無いようなときは、そ

|  |
|--|
| れでおしまいになってしまいますので、注意して扱うというのも大事な図書館の整備だ  |
| と思いましたので、伺いました。ありがとうございました。              |
| (上原委員長) 他にございますか。                        |
| (上原委員長) 私の方から1、2点。 計画の期間がですね、平成26年度から平成  |
| 30年度の5年間ということで、次のページの6ページですね、苫小牧図書館基本計画  |
| 平成26年度から平成31年度と書いてあるんですが、これはどっちが正しいのでしょ  |
| うか。それとですね、進行管理及び評価前のページの5ページなんですけど、3行目です |
| が、具体的な取り組みを年単位で整備するというふうに書いてありますけれども、これ  |
| は年次計画ということではないかなと思うのですが、そう理解をしていいのかどうかで  |
| すね。それと評価なんですけど、後ろのほうに評価方法と、評価項目が付いていますけれ |
| ども、これですと評価時点が平成31年度3月31日というふうになっているんですね。 |
| という事は、5年間まとめて評価をするという事であろうと思うんですが、もし年次計  |
| 画があるのであれば、毎年評価を行う必要がないのかどうかですね。その点をお答えい  |
| ただきたいと思います。                              |
| (生涯学習課長) 大変申し訳ございません。6ページの基本計画図につきましては、  |
| 平成26年度から30年度の記載間違いでございます。あと年次計画のお尋ねがござい  |
| ましたけれども、年次計画の具体的なものにつきましては、このさらに下の計画でござ  |
| います苫小牧市図書館中期計画、こういったものを毎年度作成して、そういった中で、  |
| さらに毎年度、事業等を達成できたのかどうか、こういった評価等を行っていくことに  |
| なっております。中期計画につきましては、今まだこれから作成中なんですけれども、  |
| もう少しでお示しできるというふうに考えてございます。また、評価方法でございます  |
| けれども、確かに最後5ヶ年間まとめてこの基本計画については、達成できたのかどう  |
| か、といったところを、評価していただくというふうに考えてございます。さきほど申  |
| したとおり、年度ごとの中期計画を定めていきますので、毎年度ごとの達成につきまし  |
| ては、そちらのほうで評価・点検をしていただくとなっておりますけれども、トータ   |
| ル的なこの基本計画につきましては、最後の5ヶ年間まとめて評価をしていただくとい  |

|  |
|--|
| うふうになっております。   |
| (上原委員長) わかりました。他にございますか。   |
| (佐藤守委員) 学校との関係なんですけれども、「学校への図書の貸出や調べ学習への協力など、学校支援の充実を行います」、と11ページにあるんですけれども、学校の図書ボランティア、小中学校の図書ボランティア、中学校はあまりないと思いますけれども、小学校の図書ボランティアがあることによって、図書館が綺麗になったり、本をなおしていただいたりという、いい機能をされているんですけれども、学校の図書ボランティアの方との連携というのも、学校の中に入れてもらった方が良いのか、17ページのほうに「図書館ボランティアの養成・支援」ってあるんですけれども、ここに小学校の図書ボランティアを支援とか、どちらかでもいいんでしょうけれども、学校の図書ボランティアの方も仲間に入れるような形で、養成していくとか指導していくとか、どこかで入れていただきたいなと思うんですけれども、どうでしょうか。 |
| (生涯学習課長) この基本計画の中には、図書館ボランティアを養成していくという中身にはなっております。さらにお話あったように、学校の支援の充実、こういったものも合わさってなっているというふうに書いてございます。ですから、学校、特に小学校の図書ボランティアの皆さん、こういった方々と、中央図書館のボランティアの方々もいろんな確かにノウハウも持っている部分もあると思いますので、そこについては、文言で入るかどうかについては、これから検討いたしますけれども、そのへんどこかに組み込めるように考えていきたいというふうに思います。   |
| (上原委員長) よろしいですか。他にございませんか。他にご質問等ないようですので、質疑終結いたします。その他お持ちの方いらっしゃいますでしょうか。  |
| (佐藤守委員) 2点ほどお願いします。ALTの先生方によって、子供達の英語に入りやすい過程を作るということで、チャレンジングリッシュというのが実施されたと思うんですけれども、その状況について教えていただければというのが1点目です。2点目が、教育委員会とまたちがうところで、やられているとは思いますが、生保受給世帯の中学生学習支援ということで、大変いい事ではないかなと思うので、それ   |

の具体的な内容と、また教育委員会との関係ですね。それと中学生だけじゃなく、ぜひ小学生の方もですね、考えられているのかというのを、わかる範囲で結構ですので、教えていただきたいなと思います。

(教育部長) 順番ちょっと逆になりますけれども、生保の関係から。今回、生活保護受給者にたいしましては、生活支援課のほうで、国の事業なんですけれども、予算が配分されます。今年度につきましては100%国のお金という事での実施です。今年度は生活保護受給者である中学校が対象という事業ということで、今年度に関しましては、教育委員会との連携とかということ抜きに、生活保護事業の中での取り組みというようなかたちであると聞いております。ただ来年度からは、生活困窮者支援法という法律の枠組みの中で、この活動が行われることとなります。そうなりますと、生活保護世帯だけでなく、現在就学援助を受けている準要保護世帯も対象となるという事になりますので、そうなれば来年度に向けては、今年度の事業を別として、生活支援課の方と、市教委の方とで次年度に向けた活動をどのようにということを考えていかなければならないというふうなところで、まだ具体的なものは固まっておりませんが、来年度からそのような動きになるというふうに聞いております。

(指導室長) ALTのチャレンジイングリッシュの関係でございますけれども、3月末、3日間の日程で、それぞれ午前のコース、午後のコース、2グループに分かれまして、教育福祉センターのほうで実施いたしました。参加人数は、当初100名程度を予定していたんですが、集まった数は58名と、私ども、周知の方法にちょっと問題があったかな、足りなかったかなと反省があります。事後アンケートをとりましたので、そのへんの所から子供達の声をもとめてご報告させていただきますが、意欲等に関しては、「大変おもしろかった」「英語が楽しくなった」という声が多かったというふうにおさえております。「英語の自信がついた」だとか、「中学校でも英語を頑張ろう」と思ったというような声が多数を占めておりました。内容につきましても、「発音の違いが分かった」ですとか、あるいは、「ゲームが非常に楽しかった」というような声が非常に多かったです。反響につきましては、何人かの保護者の方が参加したり、送迎に来てお

りましたので、私どものほうからお声をかけさせていただいて、どうですか、というふうに聞きましたら、「参加させてよかった。今後もこのような機会があれば参加させたいし、おうちに帰ってからもチャレンジングリッシュの話題を楽しそうに子供は話していた。」と伺っております。状況的には以上でございます。

(佐藤守委員) はい、ありがとうございます。学習支援の方で、学校とケースワーカーの方が家庭訪問して、授業を説明している最中だというのは、記事では見たんですけども、学校との関わり合いが無いとなかなか話が進んでいかないのかなと思うんですけども、そういう面で教育委員会と、支援課で打合せをしながらいくのか。まったく支援課で一方通行でいったら何か、おかしな事になりそうな気もしないではないんですけども、そのへんの教育委員会としての考え方をお聞きしたいなと思います。

(教育部長) 今年度については、あくまでも生活支援の方の事業という事で、生活支援課の方でやっております。実際には中学生が対象という事ですので、中でのどのような内容の、学習塾形式のような形にするのか、あるいは学校の授業の補完というような形であるのかということについては、現在これを委託する事業者、決定したということですので、今後事業者の方と、生活支援課の方とで、進め方を検討しながら内容を決めていくというふうに今年度の取り組みについては聞いております。来年度以降につきましては、準要保護世帯も対象となっているということになりますので、そこに関しては、今後市教委と連携をとりながら進めていきたいというふうに思っております。

(上原委員長) よろしいですか。その他お待ちの方いらっしゃいますでしょうか。それではないようですのでその他については終わります。

8 委員会閉会の宣言（上原委員長）…15時53分